

第25回京都大学市民防災講座 チャット機能・アンケートの質疑応答

富山大学 杉浦先生のご講演に関する質疑応答	
Q	A
温暖化に伴い北陸の降雪・積雪量は平均値としては減少する反面、海水温が上昇するため寒波との温度差が従来より大きくなるため、降るときには豪雪になる旨、とある書物にありました。雪は減るものの降れば豪雪、との説に対する先生のご見解をご教示いただければ幸いです。	気象庁の将来予測に関する報告や学術論文などで、北海道や本州の内陸部で極端な大雪が増す可能性が指摘されており、このような認識を持っています。
シベリアの不同沈下建物の紹介がありました、一般的なことなのか、特別なことなのか、特別なことなのでしょうか？ また、シベリアでは、日本の寒冷地で一般的に行われている凍上深度以下まで基礎の根入れはしないということなのでしょうか。	ヤクーツクの永久凍土の厚さは200mという報告があります。永久凍土域では構造物への被害が生じますが、近年の対応技術も発展していることと思います。
平成18年雪氷災害の死者数の原因別構成比率の高い【屋根の雪下ろし等】で、年齢別構成において作業の知見、経験も豊富と思われる65才以上が高くなっていますが、単に作業に従事する人数の年齢別割合が高いということだけでしょうか、もしくは、一人作業とか何か他に理由があるのでしょうか？	作業される方の年齢割合が高いということで誘発してしまう要因があるかとも思います。1人で作業されることもあると思いますので、スライドでご紹介した内閣府のパンフレットにはいくつかの注意点が記載されております、よろしければご参照下さい。

京都大学 川池先生のご講演に関する質疑応答	
Q	A
社会全体として災害による被害を減らしていくためには、関心のない市民にも関心を向けてもらうことが重要であると感じています。また、一方的に情報発信をするだけでは、災害時に避難行動につなげてもらうことが難しいと感じています。どのようにすれば関心を向けてもらい、避難行動につなげることができると思いますか	ある小学生向けの行事で、地元のハザードマップを広げて避難経路を考えてもらったところ、子どもさんよりも保護者の方が熱心にマップを見て質問していました。一般論には関心が向かなくても、自分の地元の特定の情報には関心が向くという人は多いかもしれません。ハザードマップを目にする機会を無理にでも作ることは、関心を向けるきっかけになると思います。また、地元の災害特性などを、学校で教えることも重要だと思います。子どもの話を通して大人が耳を傾けることもあります。それぞれの地域に特有の災害履歴や特性があることを知れば、将来他の地域に移り住んだとしてもその特性を調べるのが重要だということがわかります。子どものうちからそのような意識を身につけておくことは、日本の国土に住むうえで大変重要だと思います。

富山県 前山氏のご講演に関する質疑応答	
Q	A
トップダウンで対応を行うというお話がありましたが、異常気象などがあり、経験したことがないことに対応していく場合において、すべてを把握していくことが難しいのではないかと感じますが、どのようにお考えでしょうか。	災害等の危機情報で、特に急を要する場合は、知事、危機管理監等の危機管理の責任者に報告し、速やかに指示を受ける体制をとっております。また、11月には大雪タイムラインを作成し、災害級の大雪の恐れがある場合には、3日前程度から大雪警戒本部を設置し、全庁的な警戒体制をとることとしております。

<p>除雪費の削減が叫ばれている中で日中の機動的除雪をするということは除雪費の増加を招きます。社会活動の停滞を防ぐということをより重視することでしょうか？</p>	<p>機動的除雪の実施については、災害級の大雪のような短時間で積雪が増大するおそれがある場合等に検討することとしております。1月の大雪時のような交通マヒが生じ、県民の皆様の生活に支障が生じないよう努めてまいります。</p>
<p>道路のライブカメラを大幅に増強する動きは、湿雪での大雪が降りやすい北陸や山陰で盛んなように思います。今後、湿雪が降る回数が増えると予想されているような地域では、ライブカメラの増強をした方が良いとお考えでしょうか？</p>	<p>道路のライブカメラを設置することで、どこでどのような渋滞が発生しているかリアルタイムに確認することが可能となります。道路管理者のみならずドライバー等が道路状況を把握できるよう、渋滞が発生しやすい箇所等にカメラの増強を検討することが有効だと考えます。</p>

西日本旅客鉄道株式会社 漆原氏のご講演に関する質疑応答	
Q	A
<p>散水消雪区間で使用する水は、どこから引水していますか？また、地下水低下への対応策を教えてください。</p>	<p>富山市周辺での散水消雪区間で使用する水は地下水を使用しています。地下水低下時は、高架上のカメラ画像で積雪の有無を確認し、散水が必要であると判断した時のみ稼働させる手動運転を行います。</p>
<p>北陸新幹線の雪氷対策は区間によって様々織り交ぜていますが、どのようなデータを使用して導入検討されましたか？</p>	<p>18年周期豪雪の特異性(過去に北陸地域で経験した豪雪 昭和20年、38年、56年)から、概ね20年確立再現期待値を設計最大積雪深として、設計を行っています。</p>
<p>除雪の発令基準(在来線・新幹線)の降雪深を決める際に、雪質(乾雪・湿雪)は考慮されていますか？</p>	<p>雪質については考慮していません。</p>
<p>計画運休が決定されると最終便が近づくと混雑が激しくなってくると思いますが、女性専用車両の設定解除等の対応はされるのでしょうか？</p>	<p>金沢支社では女性専用席を設定しています。計画運休した列車以外は所定扱いとしていますので、女性専用席の設定解除は行っていません。</p>
<p>積雪時には、構造物の損傷などの点検を行うことは難しいと思われませんがどのようにして行われていますか。また、積雪に伴う融雪水や散水などによる、高架橋等の構造物の劣化を進行させる要因はありますか。</p>	<p>法令に則り、積雪期以外の時期で点検を実施しています。融雪水や散水による構造物への影響はありません。</p>